

学科コード	N1
-------	----

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	担任		
科目名	総合演習 1	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	堀内 貴彦		
科目名	情報リテラシー1	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定3級」および「文書デザイン検定3級」以上の検定に合格する				
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。7月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング				
第2週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	ワープロ検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第4週	ワープロ検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	ワープロ検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	ワープロ検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第8週	中間試験 ワープロ検定準2級程度の問題				
第9週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第11週	ワープロ検定問題演習 級別ワープロ検定模擬テスト				
第12週	問題演習およびワープロ検定				
第13週	文書デザイン検定3級および3級程度の問題解法 個別問題演習				
第14週	文書デザイン検定3級および2級程度の問題解法 個別問題演習				

第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第17週	期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題
3. 履修上の注意	
<p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>マイクロソフトWord 授業配布プリント 検定過去問題のプリント</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準: 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注</p>	
6. その他	
<p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある</p>	

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	小林 千尋		
科目名	キャリアプランニング1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」				
第2週	ライフライン分析とキャリアパス				
第3週	「職業興味と職業適性」				
第4週	履歴書作成① 履歴書とは、履歴書左側を記入・作成				
第5週	履歴書作成② 履歴書右側を記入・作成 「ジョハリの窓」				
第6週	履歴書作成③ 「エゴグラム」 自己PR作成				
第7週	履歴書作成④ 自己PR作成				
第8週	履歴書作成⑤ 自己PR作成				
第9週	中間テスト 模擬履歴書の作成				
第10週	企業研究(求人票を使って)求められる人材とは				
第11週	履歴書作成⑥ 仮志望動機の作成				
第12週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成				
第13週	履歴書作成⑧ 仮志望動機の作成				
第14週	一般教養とSPI				
第15週	一般教養とSPI				

第16週	一般教養とSPI
第17週	期末テスト 履歴書の作成
3. 履修上の注意 筆記用具を持参	
4. 使用教材(テキスト等) プリント教材	
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価OR相対評 絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容	
6. その他	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	浅野 上條 得地	
科目名	動物形態機能学実習1		必修・選択(注 記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予 定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 動物の身体の機能や形態を熟知しておく事は診療業務において重要であるだけでなく、動物や看護者の安全にもつながる。 実際の身体の構造や内臓を立体的に学ぶことで、形態機能学を更に深く理解する。 クラスの全員で準備と片付けを行い、チームワークを身につける。 				
◆概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、レントゲン正常像、主要臓器の解剖、組織像などを通じて学ぶ				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	顕微鏡の取り扱いと操作法、管理法				
第2週	レントゲン正常像の観察とスケッチ				
第3週	レントゲン正常像の観察とスケッチ				
第4週	レントゲン正常像の観察とスケッチ				
第5週	ブタ肺の解剖				
第6週	ブタ心臓の解剖				
第7週	ブタの骨格の解剖				
第8週	ブタ泌尿器の解剖				
第9週	ブタ消化器の解剖				
第10週	ブタ脳の解剖				
第11週	ブタ眼球の解剖				
第12週	ブタ皮膚の解剖				
第13週	ブタ肝臓の解剖				
第14週	ブタ生殖器の解剖				
第15週	顕微鏡による組織観察				
第16週	顕微鏡による組織観察				
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					

- ・スケッチを行うので、無地のノートまたはルーズリーフと色鉛筆を用意すること(事前にアナウンスします)。
- ・解剖の上行でスマホで写真を撮影する際は、各自でジップロックなどの透過性の高いケースがあると便利です(事前にアナウンスします)。
- ・糞尿、血液が飛び散って衣服にかかることがあります。必要によって下着の替えも準備してください(事前にアナウンスします)。
- ・不定期に、家畜等の亡くなった動物を使用しての解剖を行う場合があります。
 - 1、実習着は清潔にしておく事
 - 2、髪はまとめる、爪は短く切るなどし、感染予防に努める事
 - 3、刃物を使用するため安全に留意する事
 - 4、動物を提供して下さる畜主がいること、そこに命がある事を常に意識した態度で実習に望む事

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト2巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・クラスメイトのサポート) 40%
- ・課題発表(中間・期末) 40%

6. その他

講師: 動物病院(小動物診療・大動物診療)における獣医師としての実務経験者

講師: 動物病院における動物看護師としての実務経験者

動物形態機能学実習では、獣医師として小動物臨床に従事している経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる形態機能について、また顕微鏡取扱い等について指導する。

動物臨床看護学実習では、現場での経験を活かし、体験談などを織り交ぜた授業を展開していき、実際に看護した症例などをもとに入院動物に対するアプローチの方法を指導していく。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	福澤		
科目名	動物感染症学1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>伴侶動物のイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。</p> <p>感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病現地についての理解が必要である。感染の成り立ちについての理解が必要である。動物感染症学1では、感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物(細菌・真菌・ウイルス等)について性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。</p>				
◆概要	<p>微生物(細菌・ウイルス・真菌・リケッチア・クラミジア等)の分類、生物学的特性、伝播様式や発祥のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	感染症とは	いろいろなウイルスや細菌	世界で恐れられる感染症		
第2週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性			
第3週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性			
第4週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性			
第5週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性			
第6週	微生物の分類と特徴	細菌の分類、形態、増殖、病原性			
第7週	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖、病原性			
第8週	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖、病原性			
第9週	微生物の分類と特徴	ウイルスの分類、形態、増殖、病原性			
第10週	微生物の分類と特徴	真菌の分類、形態、増殖、病原性			
第11週	微生物の分類と特徴	真菌の分類、形態、増殖、病原性			
第12週	微生物の分類と特徴	リケッチア クラミジア			
第13週	微生物の分類と特徴	プリオン			
第14週	宿主の感染防御機構				
第15週	微生物検査 ウイルス検査				
第16週	まとめ				
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					
<p>事後学習として授業の復習を必ず行う</p> <p>授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる</p> <p>グループでテーマ検討・発表をする場合もある</p> <p>事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある</p> <p>課題は提出期限を守る</p>					

<p>4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト3, 6巻 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 15% ・ 課題発表 (中間・期末) 70%
<p>6. その他 講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が知っておかねばならない微生物やウイルスの特徴とその病原性、宿主の免疫機構などについて指導する。</p>

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	得地		
科目名	動物感染症学2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	主に犬猫に感染する寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護、また飼い主に予防の大切さを伝えられるようになる。				
◆概要	寄生虫の分類、生物学的特性、生活環等について学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法などの基礎を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	寄生虫学概要				
第2週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第3週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第4週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第5週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第6週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第7週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第8週	中間試験				
第9週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第10週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第11週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第12週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第13週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、病害と反応 等				
第14週	寄生虫の基礎知識 予防対策と制御				
第15週	寄生虫の基礎知識 予防対策と制御				
第16週	寄生虫の基礎知識 予防対策と制御				

第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト3巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。	
6. その他 動物病院勤務時における、飼い主様への寄生虫感染予防の指導や、院内での予防、駆虫対策の知識と経験を活かし授業を行う。	

学科コード	N1
-------	----

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	上條		
科目名	動物看護学概論1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護の基本となる概念と動物看護の提供体制について理解する。また、獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理・国家資格化までの軌跡について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。看護過程の役割と重要性を理解する。				
◆概要	動物看護師の資格制度、職域、職務範囲等、職業としての動物看護師の理解と、獣医療の歴史や倫理綱領を通し動物看護師の職業倫理を学ぶことで、動物看護師としてどうあるべきかについて考える。看護過程の目的と意義、概要を学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物看護学総論				
第2週	動物看護の目的・概念 獣医療・動物看護の歴史				
第3週	動物看護学総論 動物看護師とは				
第4週	獣医療における動物看護師の役割 動物看護師の職域・職務範囲 職業としての動物看護師の理解・社会的立場				
第5週	国家資格化にあたって今後の動物看護師のあり方 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて 等				
第6週					
第7週					
第8週	中間試験				
第9週	動物看護者の倫理綱領				
第10週	動物看護者の倫理綱領				
第11週	動物看護者の倫理綱領				
第12週	動物看護者の倫理綱領				
第13週	動物看護過程総論 動物看護過程の考え方と必要性について				
第14週	動物看護過程の概要と展開				
第15週	動物看護過程の概要と展開				

第16週	動物看護過程の概要と展開
第17週	期末試験
3. 履修上の注意 動物看護の基本となるため、事後学習をきちんと行うこと。	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト5巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。	
6. その他 動物病院での看護師経験で学び得た知識と日本動物看護職協会の倫理綱領をもとに、実務経験も踏まえた職業倫理や社会的責任等について説く。	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	得地
科目名	動物医療関連法規	必修・選択	選択
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	各法律に関連する法規と動物看護師の関わりについて理解し11月に行われる公益社団法人日本愛玩動物協会主催の愛玩動物飼養管理士検定試験2級に合格する。 法律を通して人と動物の共生に配慮した行動とは何かを具体的に理解する。		
◆概要	動物や獣医療に関連するさまざまな法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。また、法律を学ぶ前に自分が法律を制定するならばどんな法律または条項を策定するかを考えてもらい、より興味を持ってもらい、自ら学ぶ場を作る。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	動物医療関連法規オリエンテーション テキストの確認、学習内容の確認、法律の概要		
第2週	動物看護師の倫理綱領 倫理綱領概論、綱領1～7の確認		
第3週	動物看護師の倫理綱領 綱領8～15の確認、まとめ		
第4週	法律概論 法の体系について、制定と改廃のしくみ		
第5週	獣医師法 目的、獣医師の任務、飼育動物の定義、名称、診療業務の制限		
第6週	獣医療法 目的、診療施設の定義、診療施設の開設・届出、広告の制限		
第7週	家畜伝染病予防法 目的、家畜伝染病と届出伝染病、覚えるべき伝染病		
第8週	身体障がい者補助犬法・旧薬事法 目的、定義、補助犬の同伴・取り扱い、欧米との違い		
第9週	前期中間試験		
第10週	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律 目的、対象動物、定義、事業者の責務、規格・表示について		
第11週	狂犬病予防法 目的、対象動物、登録、予防注射、飼い主の義務、海外と日本の被害状況		
第12週	感染症の予防及び感染症の患者に対する法律 目的、獣医師の責務、一類感染症、届出、指定動物		

第13週	動物の愛護及び管理に関する法律 目的、基本原則、動物愛護週間、基本指針、動物販売業者
第14週	動物の愛護及び管理に関する法律 第一種動物取扱業、第二種動物取扱業
第15週	動物の愛護及び管理に関する法律 生活環境保全、特定動物、負傷動物、繁殖制限、罰則
第16週	鳥獣保護管理法、ラムサール条約、ワシントン条約、廃棄物処理法 目的、定義、レッドブック・リスト
第17週	期末試験 受験級の過去問題
3. 履修上の注意 教科書とパワーポイントを併用し、愛玩動物飼養管理士2級に頻出される法律を中心的に進めていく。 日本と海外の法律の違いや過去に起きた裁判の事例などを紹介しながら興味を持たせる。 定期的に確認小テストを行う。	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト1巻、動物看護の教科書1巻、愛玩動物飼養管理士2級教本、課題問題集。	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20% ・中間・期末試験 70%	
6. その他 動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。	

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	小山	
科目名	公衆衛生学 1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、動物のみならず人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解し、指導することで人と動物の健全な関係構築に寄与する。				
◆概要	動物や人を取りまく環境および疫学、各人獣共通感染症の危険性、感染経路、予防対策について人医療の観点からも学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	獣医療における公衆衛生の概要 公衆衛生の目的				
第2週	獣医療における公衆衛生の概要 公衆衛生の目的				
第3週	獣医療における公衆衛生の概要 公衆衛生行政について				
第4週	獣医療における公衆衛生の概要 国民衛生の動向				
第5週	獣医療における公衆衛生の概要 OneHealthと獣医療の関係				
第6週	獣医療における公衆衛生の概要 公衆衛生業務における動物看護師の役割を理解し、飼い主指導への活かす方法について				
第7週	獣医療における公衆衛生の概要 公衆衛生業務における動物看護師の役割を理解し、飼い主指導への活かす方法について				
第8週	中間試験				
第9週	疫学と疾病予防 感染の成立について				
第10週	疫学と疾病予防 疫学調査・予防疫学				
第11週	疫学と疾病予防 人獣共通感染症				
第12週	疫学と疾病予防 狂犬病の発生地域、発症機序、予防法、予防の重要性 人獣共通感染症				
第13週	疫学と疾病予防 狂犬病の発生地域、発症機序、予防法、予防の重要性 人獣共通感染症				
第14週	疫学と疾病予防 狂犬病予防における動物看護師の役割 人獣共通感染症				
第15週	疫学と疾病予防 人獣共通感染症				

第16週	疫学と疾病予防 人獣共通感染症
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト3巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。	
6. その他 公衆衛生の順守を社会的役割として求められている動物病院での実務経験と、動物公衆衛生に関して得た知識を活かし授業を行う	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物行動学 I		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。</p> <p>犬と猫の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。</p>				
◆概要	<p>ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的な健康の大切さに注目している。『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、動物医療の専門職として求められる。</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物行動学概論	行動学とは	行動学の歴史	4つの問い(適応・進化・機構・発達)	
第2週	生得的行動	習得的行動			
第3週	脳による行動制御				
第4週	犬学	犬種と行動変化・行動特性			
第5週	犬学	犬種と行動変化・行動特性			
第6週	猫学	猫種の作出と歴史 行動変化・行動特性			
第7週	犬と猫の行動学的特徴				
第8週	行動の動機づけ 神経伝達物質				
第9週	発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化				
第10週	発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化				
第11週	発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化				
第12週	発達行動学 (新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)および社会化				
第13週	犬と猫の維持行動				
第14週	犬と猫の社会行動				
第15週	犬と猫の社会行動				
第16週	犬と猫の社会行動				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>事後学習として授業の復習を必ず行う</p> <p>授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる</p> <p>グループでテーマ検討・発表をする場合もある</p> <p>事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある</p> <p>課題は提出期限を守る</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%
- ・ 課題発表（中間・期末） 70%

6. その他

講師: 動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、主に犬猫の行動様式、行動の種類とその理由、犬猫の発達、行動学に基づいたトレーニングの必要性などについて指導する。

学科コード	N1
-------	----

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	小山		
科目名	動物福祉・倫理	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。				
◆概要	生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5R、3Rを理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	生命倫理の概念				
第2週	生命倫理と獣医療の関わり				
第3週	動物福祉の定義と実際				
第4週	動物福祉の定義と実際				
第5週	動物愛護と動物福祉				
第6週	動物の福祉と動物の権利				
第7週	五つの自由について				
第8週	中間試験				
第9週	伴侶動物の福祉				
第10週	伴侶動物の福祉				
第11週	伴侶動物の福祉				
第12週	災害時の動物福祉				
第13週	災害時の動物福祉				
第14週	産業動物の福祉 5Rの原則				
第15週	実験動物の福祉 3Rの原則				
第16週	展示動物の福祉 環境エンリッチメント				

第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
<p>ペットライフケア学科1年生との合同授業 外部講師による講演が行われる可能性があります</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>パワーポイント資料</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。</p>	
6. その他	
<p>動物病院における、来院動物、入院動物に対する福祉を実践してきた経験や震災後の動物保護シェルターでのボランティア活動、大学での専攻科目(自然環境や共生に関する科目)を活かし、福祉や愛護、動物との共生について授業を行う</p>	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	伴侶動物学 1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	代表的な犬、猫の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、動物の健康保持・増進を補助する知識を養う。				
◆概要	犬猫の品種や習性を理解した上で、日々の適切な飼育管理、安全な散歩・運動、基本的グルーミング、被毛の手入れ、口腔内衛生管理、健康診断の内容や目的等。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	伴侶動物の定義 終生飼養				
第2週	伴侶動物の種類と歴史				
第3週	伴侶動物の種類と歴史				
第4週	犬の品種と特徴				
第5週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第6週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第7週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第8週	中間試験				
第9週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第10週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第11週	犬の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第12週	猫の品種と身体的・生態的特徴				
第13週	猫の品種と身体的・生態的特徴				
第14週	猫の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				
第15週	猫の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり				

第16週	猫の飼養管理 健康管理・適した住環境・人との関わり
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること	
4. 使用教材(テキスト等)	
動物看護コアテキスト4巻(ファームプレス)	補助プリント
5. 単位認定評価方法	
評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10% をもって評価とする。	
6. その他	
講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院における 臨床現場での、飼育相談や入院動物の健康管理などの経験を活かし、伴侶動物の飼育管理について授 業を行う。	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	動物内科看護学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物の臨床看護に必要な知識を習得する。				
◆概要	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	犬と猫の健康とはなにか 一般的な管理(食事と飲水 寝る場所などの管理)				
第2週	被毛・皮膚の管理 運動の管理 散歩の効能と効果・安全な散歩				
第3週	排泄の管理 病気の早期発見のための管理 定期的な健康診断				
第4週	動物看護師が行う動物病院での診療補助 診察 衛生管理 その他				
第5週	動物看護師が行う動物病院での診療補助 保定法				
第6週	動物看護師が行う動物病院での診療補助 保定法				
第7週	動物看護師が行う動物病院での診療補助 身体検査				
第8週	動物看護師が行う動物病院での診療補助 身体検査				
第9週	検査・処置に必要な技術 注射針・シリンジ アンプル バイアル				
第10週	検査・処置に必要な技術 採血の目的と方法 穿刺 カテーテル導尿				
第11週	輸液管理の基礎知識 輸液管理の適応・目的 輸液剤 輸液量計算 リスク				
第12週	輸液管理の基礎知識 輸液管理の適応・目的 輸液剤 輸液量計算 リスク				
第13週	輸液管理の基礎知識 輸液管理の適応・目的 輸液剤 輸液量計算 リスク				
第14週	輸血の基礎知識 適応 事前検査 輸血中モニタリング				
第15週	輸血の基礎知識 適応 事前検査 輸血中モニタリング				
第16週	投薬にかかわる技術 内服薬と外用薬				
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					
<p>器具を扱う際には、操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い授業に臨む。学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。</p> <p>アクセサリ類は必ず外すこと。</p> <p>髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。</p> <p>挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。</p> <p>生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮を怠らないこと。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					

動物看護コアテキスト5.6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席状況 10%
- ・ 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20%
- ・ 中間・期末試験 70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得すべき内科学について、また臨床現場で必要となる内科的看護スキルについて実例も交え指導する。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	加藤		
科目名	動物臨床検査学 I-1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な臨床検査の原理や方法、意義について、安全かつ正確なデータ取得ができるように理解する。 動物看護における、各種検査の内容を理解し、必要に応じて患者指導等行うことができるようにする。				
◆概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	尿の性状検査について理解する。 尿沈渣の検査法について理解する。				
第2週	尿の性状検査について理解する。 尿沈渣の評価方法について理解する。(検鏡像と臨床の関連性を含む)				
第3週	CBC検査概要について理解する。				
第4週	検査手順、静脈採血・動脈採血および採血部位について理解する。				
第5週	CBC検査概要について理解する。				
第6週	検査手順、静脈採血・動脈採血および採血部位について理解する。				
第7週	血液検体の処理方法について理解する。 血液検体の分離処理(全血、血漿、血清検体の処理)について理解する。				
第8週	血算検査について、その原理と方法および検査手順について理解する。				
第9週	生化学検査について、その原理と方法および検査手順について理解する。 (肝・胆・膵・腎関連)				
第10週	生化学検査について、その原理と方法および検査手順について理解する。 (電解質、脂肪代謝、凝固系関連)				
第11週	電解質の評価について、その概要と評価方法を理解する。				
第12週	血液ガス、酸塩基平衡について、その概要と評価方法を理解する。				
第13週	血球検査における血液塗抹標本の作成法について理解する。				
第14週	血液塗抹標本の見方と評価法について理解する。 (白血球、赤血球の評価)				
第15週	血液塗抹標本の見方と評価法について理解する。 (異常白血球、血小板の評価)				

第16週	血液型と輸血について理解する。 輸血時の注意事項について理解する。
第17週	糞便検査における採便法を理解する。 虫卵・原虫の検出法、細菌の観察法について理解する。
3. 履修上の注意	
配付資料を中心に講義を行います。単位認定試験は配付資料の内容より出題。 単項目での講義が多いが、前後の授業の関連性が高いので、復習が必要となります。	
4. 使用教材(テキスト等)	
動物看護コアテキスト6巻 配付資料	
5. 単位認定評価方法	
評価基準: 絶対評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・ 課題発表(中間・期末) 70% 	
6. その他	
講師: 放射線技師(ヒト医療における)および動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物病院での臨床検査における動物看護師の役割と必要な知識・手技について指導する。	

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	浅野 上條 得地	
科目名	動物形態機能学実習1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 動物の身体の機能や形態を熟知しておく事は診療業務において重要であるだけでなく、動物や看護者の安全にもつながる。 実際の身体の構造や内臓を立体的に学ぶことで、形態機能学を更に深く理解する。 クラスの全員で準備と片付けを行い、チームワークを身につける。 				
◆概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、レントゲン正常像、主要臓器の解剖、組織像などを通じて学ぶ				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	顕微鏡の取り扱いと操作法、管理法				
第2週	レントゲン正常像の観察とスケッチ				
第3週	レントゲン正常像の観察とスケッチ				
第4週	レントゲン正常像の観察とスケッチ				
第5週	ブタ肺の解剖				
第6週	ブタ心臓の解剖				
第7週	ブタの骨格の解剖				
第8週	ブタ泌尿器の解剖				
第9週	ブタ消化器の解剖				
第10週	ブタ脳の解剖				
第11週	ブタ眼球の解剖				
第12週	ブタ皮膚の解剖				
第13週	ブタ肝臓の解剖				
第14週	ブタ生殖器の解剖				
第15週	顕微鏡による組織観察				
第16週	顕微鏡による組織観察				
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					

- ・スケッチを行うので、無地のノートまたはルーズリーフと色鉛筆を用意すること(事前にアナウンスします)。
- ・解剖の上行でスマホで写真を撮影する際は、各自でジップロックなどの透過性の高いケースがあると便利です(事前にアナウンスします)。
- ・糞尿、血液が飛び散って衣服にかかることがあります。必要によって下着の替えも準備してください(事前にアナウンスします)。
- ・不定期に、家畜等の亡くなった動物を使用しての解剖を行う場合があります。
 - 1、実習着は清潔にしておく事
 - 2、髪はまとめる、爪は短く切るなどし、感染予防に努める事
 - 3、刃物を使用するため安全に留意する事
 - 4、動物を提供して下さる畜主がいること、そこに命がある事を常に意識した態度で実習に望む事

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト2巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・クラスメートのサポート) 40%
- ・課題発表(中間・期末) 40%

6. その他

講師: 動物病院(小動物診療・大動物診療)における獣医師としての実務経験者

講師: 動物病院における動物看護師としての実務経験者

動物形態機能学実習では、獣医師として小動物臨床に従事している経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる形態機能について、また顕微鏡取扱い等について指導する。

動物臨床看護学実習では、現場での経験を活かし、体験談などを織り交ぜた授業を展開していき、実際に看護した症例などをもとに入院動物に対するアプローチの方法を指導していく。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	福澤/本橋/上條	
科目名	動物内科看護学実習 I-1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
◆概要	飼育環境整備、保定法、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血などについての実践。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	実習の心得 動物の基本的な取り扱い 安全なハンドリング				
第2週	飼育環境整備 入院ケージ整備 消毒 トイレ等の管理				
第3週	診察室準備 衛生管理 アル綿				
第4週	診察準備 動物の抱き方 診察台での安全管理				
第5週	基本的な保定法				
第6週	基本的な保定法				
第7週	聴診器の取り扱い 聴診法				
第8週	身体検査 全身状態 (意識レベル BCS 粘膜色 体表リンパ節 BW測定)				
第9週	身体検査 全身状態 (意識レベル BCS 粘膜色 体表リンパ節 BW測定)				
第10週	バイタルサイン TPR CRT PFA				
第11週	バイタルサイン TPR CRT PFA				
第12週	フィジカルアセスメント				
第13週	フィジカルアセスメント				
第14週	フィジカルアセスメント				
第15週	注射器取扱い アンブル バイアル 注射法				
第16週	注射器取扱い アンブル バイアル 注射法				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。 5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護コアテキスト 動物看護実習テキスト 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

- ・出席状況 10%
- ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20%
- ・中間・期末試験 70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

実例をもとに、現場をイメージした診察準備や入院ケージの準備を実践する。保定や身体検査など基本的な指導に加え、ありとあらゆるパターンがあることを想定し、説明したうえでできるだけ多くの技術を習得してもらうことを目指す。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物臨床検査学実習 I-1		必修・選択(注 記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予 定)	17コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方、検体の採材方法や処理、保存方法などを含む動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。				
◆概要	顕微鏡の取り扱い、各種機器の取り扱い、尿検査、糞便検査を実施				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	臨床検査概論 検査項目 検体・検体の処理				
第2週	顕微鏡各部名称 取り扱い				
第3週	尿検査概論 尿とは 採尿法と保定 必要な器具 検体の取り扱いと保存				
第4週	尿検査 一般性状検査 尿検査試験紙 科学的検査				
第5週	尿検査 一般性状検査 尿検査試験紙 科学的検査				
第6週	尿検査 尿沈渣 遠心分離機 染色 顕微鏡学的検査				
第7週	尿検査 尿沈渣 遠心分離機 染色 顕微鏡学的検査				
第8週	尿検査全過程 中間試験				
第9週	糞便検査概論 健康な便 採便法 必要な器材 検体の取り扱いと保存				
第10週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法				
第11週	糞便検査 一般性状検査 直接塗抹法				
第12週	糞便検査 飽和食塩水浮遊法				
第13週	糞便検査 飽和食塩水浮遊法				
第14週	糞便検査 ドライ染色標本				
第15週	糞便検査 全過程				
第16週	血液検査概要				
第17週	最終確認試験 期末試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					

動物看護コアテキスト6
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席状況 10%
- ・ 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20%
- ・ 中間・期末試験 70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	動物看護師学科	担当者	堀内 貴彦
科目名	情報リテラシー2	必修・選択	選択必修
単位数	1単位	授業形態	演習
		年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
		前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定に合格する		
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、12月の検定は希望受験とする。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	検定問題対策		
第2週	検定問題対策		
第3週	検定問題対策		
第4週	表計算検定3級程度の問題解法		
第5週	表計算検定3級程度の問題解法		
第6週	表計算検定3級程度の問題解法		
第7週	表計算検定3級程度の問題解法		
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法		
第9週	中間試験		
第10週	表計算検定2級程度の問題解法		
第11週	表計算検定2級程度の問題解法		
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法		
第13週	表計算検定1級程度の問題解法		
第14週	表計算検定1級程度の問題解法		
第15週	表計算検定問題演習		
第16週	表計算検定問題演習		
第17週	表計算検定 (期末試験兼ねる)		
3. 履修上の注意			
課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日まで提出する			
4. 使用教材(テキスト等)			
マイクロソフトWord,Excelを使用 検定過去問題のプリント			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点			
6. その他			
※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある			

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	上條	
科目名	動物感染症学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	前期に修得した微生物学・寄生虫学・免疫学を基盤に、アレルギー反応やワクチンの定義、ワクチンプログラム、副反応等を正しく理解する。また、様々な滅菌法、対象に適した消毒法の知識を得ることで衛生管理に役立てる。				
◆概要	ワクチンの定義、作用機序、ワクチネーションプログラム、副反応、飼い主さんへの説明技術や免疫学をもとにアレルギー反応についても理解する。また、衛生管理に必須である滅菌法、消毒法について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ワクチンの原理と種類				
第2週	ワクチンの原理と種類				
第3週	ワクチンの原理と種類				
第4週	ワクチン接種プログラム				
第5週	ワクチン接種プログラム				
第6週	ワクチン接種による副反応 アレルギー反応				
第7週	ワクチン接種の実際と抗体検査の理解				
第8週	中間試験				
第9週	衛生管理としての滅菌、消毒の定義と総論				
第10週	滅菌法の原理と種類 物理的滅菌法、化学的滅菌法				
第11週	滅菌法の原理と種類 物理的滅菌法、化学的滅菌法				
第12週	滅菌法の原理と種類 物理的滅菌と化学的滅菌の実際				
第13週	消毒法の原理と種類 消毒・殺菌・除菌の定義				
第14週	消毒法の原理と種類 対象に適した消毒を行うために必要な知識				
第15週	消毒法の原理と種類 対象に適した消毒を行うために必要な知識				

第16週	衛生管理まとめ
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト3巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数、試験点数、授業態度(積極性等)、課題提出状況等をもって評価とする。	
6. その他 動物病院勤務時における、飼い主様への寄生虫感染予防の指導や、院内での予防、駆虫対策の知識と経験を活かし授業を行う。	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	浅野	
科目名	動物形態機能学2		必修・選択(注 記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予 定)	34コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生物の未履修者を含めて、生体を扱う上で必要な生物学を身に着ける。 ・犬や猫を中心とした、細胞・組織・各臓器の形態と機能を理解する。 ・動物形態機能学実習で解剖を行う際に、知見の基礎を身につける。 ・次年時以降に疾病について学ぶ際の、基礎を身につける。 				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> ・動物形態機能学2と合わせて1年間を通して、動物看護コアテキスト2巻を使用する。 ・前期の前半にてすべての臓器について概論を学ぶ。前期の後半と、後期にて各臓器について詳説していく。 				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	泌尿器				
第2週	泌尿器				
第3週	運動器				
第4週	運動器				
第5週	内分泌				
第6週	内分泌				
第7週	生体防御				
第8週	中間試験				
第9週	生体防御				
第10週	呼吸器				
第11週	呼吸器				
第12週	呼吸器				
第13週	神経系				
第14週	神経系				
第15週	神経系				
第16週	分子生物学				
第17週	期末評価試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意すること(ルーズリーフ非推奨)。 ・テキスト、ノートなどは教室に置きっぱなしにしないように。 ・コロナ関連で休校の際は、オンラインで対応します。連絡されたアプリなどを準備すること。 ・前期、後期にわたって一年間の授業になります。中間試験、最終評価試験も厳しく評価します。 					

4. 使用教材(テキスト等)

テキスト: 動物看護コアテキスト2巻

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 15%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師: 動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる形態機能について指導する。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	得地 ひな乃		
科目名	動物感染症学2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	主に犬猫に感染する寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護、また飼い主に予防の大切さを伝えられるようになる。				
◆概要	寄生虫の分類、生物学的特性、生活環等について学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法などの基礎を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	寄生虫学概要				
第2週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第3週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第4週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第5週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第6週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第7週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第8週	中間試験				
第9週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第10週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第11週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第12週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第13週	寄生虫の基礎知識 寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、、病害と反応 等				
第14週	寄生虫の基礎知識 予防対策と制御				
第15週	寄生虫の基礎知識 予防対策と制御				

第16週	寄生虫の基礎知識 予防対策と制御
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト3巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10% をもって評価とする。	
6. その他 動物病院勤務時における、飼い主様への寄生虫感染予防の指導や、院内での予防、駆虫対策の知識と経験を活かし授業を行う。	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	福澤 美雪		
科目名	動物行動学Ⅱ		必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○	
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標	今までに習得した行動学の知識を基に、行動を作る学習理論と基本的なトレーニング法について理解する。また、犬猫で発現する主な問題行動における、問題行動の種類や治療法、トレーニング法について理解し、問題行動を予防するための環境エンリッチメントなど、適切な飼育管理法についてさらに理解する。					
◆概要	動物がどのように学習するのか、『学習の起こる仕組み』と『脳の特徴』について学ぶ。問題行動の種類と治療法、分離不安等に使用する薬剤、問題行動予防と行動の修正について学ぶ					
2. 授業内容 (週単位で記入)						
第1週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論					
第2週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論					
第3週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論					
第4週	しつけ・トレーニングの理論と応用 学習理論					
第5週	犬と猫のコミュニケーション					
第6週	犬と猫のコミュニケーション					
第7週	中間試験					
第8週	犬と猫のコミュニケーション					
第9週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)					
第10週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)					
第11週	問題行動総論 定義 要因(遺伝的 生得的 環境)					
第12週	問題行動修正と予防 飼い主指導					
第13週	問題行動修正と予防 飼い主指導					
第14週	問題行動修正と予防 飼い主指導					
第15週	行動診療 コンサルテーション 薬物療法					
第16週	行動診療 コンサルテーション 薬物療法					
第17週	最終確認試験					
3. 履修上の注意						
事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる グループでテーマ検討・発表をする場合もある 事前学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること						
4. 使用教材(テキスト等)						

動物看護コアテキスト4巻
愛玩動物飼養管理士2級教本
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席による評価 15%
- ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%
- ・ 課題発表（中間・期末） 70%

6. その他

講師: 動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、行動を作る過程と学習の起こる仕組み、問題行動概論について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	本橋		
科目名	伴侶動物学2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	近年増加しつつあるコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレットの他、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、その種本来の習性に則した飼育方法を飼い主に説明・指導することが出来るようになること。				
◆概要	伴侶動物の歴史、品種、飼育管理法、エキゾチック動物の生態について理解する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	エキゾチックアニマルオリエンテーション テキストの確認、定義、飼育する理由・問題点				
第2週	ウサギ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法				
第3週	ウサギ 代表的な疾病、保定方法、確認問題				
第4週	フェレット 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法(自身の飼養体験談)				
第5週	フェレット 代表的な疾病(自身の看護体験談)、保定方法、確認問題				
第6週	ハムスター 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法				
第7週	ハムスター 代表的な疾病、保定法、確認問題				
第8週	モルモット・チンチラ 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、代表的な疾病、保定方法、確認問題				
第9週	中間試験				
第10週	鳥類 生体と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、解剖学的特徴、保定方法				
第11週	インコ・オウム類とフィンチ類 生態と習性、一般的な飼育方法				
第12週	インコ・オウム類とフィンチ類の違い 鳩のピジョンミルクについて 十姉妹の仮母について				
第13週	確認問題				
第14週	家禽類・家禽類 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法				
第15週	爬虫類 爬虫類の歴史 生態と習性、生理学的データ、一般的な飼育方法、確認問題				

第16週	エッセイ、エッセイ的レポート、一般的な飼育方法、確認問題
第17週	期末試験
3. 履修上の注意 愛玩動物飼養管理士2級で頻出されるエキゾチックアニマルの問題に関連する範囲を中心的に行っていく。 事後学習を必ず行うこと	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト4巻 愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 20% ・ 中間・期末試験 70%	
6. その他 講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での経験を活かし、教科書の知識だけではなく飼い主様への適切な飼育の説明ができるようになるなど知識を詰め込むだけでなく実際の現場をイメージした授業を展開していく	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	浅野 智由	
科目名	動物臨床看護学各論1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の原因・症状・治療の選択、また予防について理解する。 ・各疾病の看護ポイントを理解する。 				
◆概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ同陸奥にどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	徴候や疾患の理解と対処 代表的な徴候や病態と疾患 代表的な徴候の評価法				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週	代表的な徴候 全身徴候 特異的徴候 特異的病態				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	代表的な循環器系疾患 弁膜症・心筋症・心奇形・犬糸状虫など				
第10週					
第11週					
第12週					
第13週	代表的な呼吸器系疾患 イヌとネコの呼吸器感染症・気管の疾患・肺の疾患・鼻の疾患など				
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の沿って講義を進めるが、写真教材などを使用するためipadを用意する事。 ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
テキスト:動物看護コアテキスト6巻					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					

・試験成績（中間・期末） 70%

6. その他

講師：動物病院（小動物診療）における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

学科コード	N1
-------	----

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	小山 真央		
科目名	動物臨床栄養学 1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物の健康管理において、また動物看護業務にとって重要な栄養学の知識を習得し、入院管理や飼い主指導に活かせるようにする。また、後期に開始する療法食についての学習を理解するにあたり重要な基礎知識となる。				
◆概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学から始まり、動物の状態に適したフード、摂取カロリーの算出方法について理解し、栄養を通して健康管理について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	栄養学概要 動物栄養学・ペットフードの歴史、動物の食性、健康状態に対する栄養の影響				
第2週	栄養学概要 動物栄養学・ペットフードの歴史、動物の食性、健康状態に対する栄養の影響				
第3週	5大栄養素総論				
第4週	5大栄養素の基礎 3大栄養素				
第5週	5大栄養素の基礎 3大栄養素				
第6週	5大栄養素の基礎 3大栄養素				
第7週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分				
第8週	中間試験				
第9週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分				
第10週	6大栄養素の基礎 ミネラル・ビタミン・水分				
第11週	エネルギー要求 エネルギー要求量の理解				
第12週	エネルギー要求 エネルギー要求量の理解と給与量の算出				
第13週	フードに関する基礎知識と栄養指導の要点				
第14週	フードに関する基礎知識と栄養指導の要点				
第15週	フードに関する基礎知識と栄養指導の要点				

第16週	フードに関する基礎知識と栄養指導の要点
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト6巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う	
6. その他 臨床現場における入院動物の栄養管理や飼い主様からの食事管理の相談など実務を通し得た知識や経験をもとに授業を行う	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	浅野/上條/得地	
科目名	動物形態機能学実習 動物臨床看護学実習2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	形態機能学実習:動物の身体の機能や形態を熟知しておく事は診療業務において重要であるだけでなく、動物や看護者の安全にもつながる。実際の身体の構造や内臓を立体的に学ぶことで、形態機能学を更に深く理解する。 臨床看護学実習:動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
◆概要	形:動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ 臨:入院動物看護 褥瘡管理 栄養管理 痛みの評価 等				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	解剖の予備日もしくは顕微鏡による組織観察				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週	最終評価試験				
第9週	臨床動物看護学実習 「看護」とは? 飼い主様への対応				
第10週	動物看護過程 動物看護記録・書き方のポイント				
第11週	入院動物の管理				
第12週	スタンダードプリコーション 適切な予防の理解と方法				
第13週					
第14週	臨床動物看護学実習 食事管理 食事の選択 与え方の工夫 経管栄養法				
第15週					
第16週					
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					
動物形態機能学実習1を参照すること					
4. 使用教材(テキスト等)					

動物看護コアテキスト2・5.6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席による評価 15%
- ・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 35%
- ・ 課題発表 (中間・期末) 50%

6. その他

講師: 動物病院(小動物診療・大動物診療)における獣医師としての実務経験者

講師: 動物病院における動物看護師としての実務経験者

動物形態機能学実習では、獣医師として小動物臨床に従事している経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる形態機能について、また顕微鏡取扱い等について指導する。

動物臨床看護学実習では、現場での経験を活かし、体験談などを織り交ぜた授業を展開していき、実際に看護した症例などをもとに入院動物に対するアプローチの方法を指導していく。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	福澤/本橋/上條		
科目名	動物内科看護学実習 I-2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
◆概要	飼育環境整備、保定法、身体検査、バイタルチェック、調剤、留置針設置、輸液、などについての実践。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	実習に参加する動物の健康状態の観察と把握				
第2週	フィジカルアセスメント				
第3週	バイタルチェック 保定				
第4週	被毛や皮膚の管理の実践				
第5週	デンタルケア				
第6週	運動の管理と実践				
第7週	排泄の管理と実践				
第8週	病気の早期発見のための管理と実践				
第9週	調剤の基礎知識 薬剤の取り扱いと管理				
第10週	錠剤				
第11週	散剤 液剤 分包紙				
第12週	輸液管理の基礎知識				
第13週	輸液の意味・必要性				
第14週	輸液剤の種類				
第15週	輸液準備				
第16週					
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。 5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。					
4. 使用教材(テキスト等)					

動物看護コアテキスト5、6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席による評価 15%
- ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 35%
- ・ 課題発表（中間・期末） 50%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得しておくべき犬猫の身体検査、輸液療法、調剤の手技等について指導する。実例や経験をもとに、輸液ラインの準備や静脈内留置の取り方などを実際の現場でどのように行っていたかなど体験談を織り交ぜるなどしてイメージしやすいような指導を行う。また、食事の与え方なども実際に行った成功例を説明するなどして指導を行っていく。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	北村/本橋/上條		
科目名	グルーミング実習基礎	必修・選択	必須		
単位数	3単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	54コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	お手入れに関する知識と技術を学び、グルーミングの基本的な流れを理解し、犬が受け入れられる扱い方を身につける。				
◆概要	犬の皮膚トラブルの予防や治療の為、皮膚や被毛の構造を理解し適切なグルーミングを行う。安全にグルーミングを行う為、適切な道具の扱い方、犬の保定やボディランゲージを知ること。スムーズに作業が進むように周囲と協力が取れること。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【講義】 お手入れとは 皮膚・被毛の構造について				
第2週	スキンケア 犬のストレスと保定				
第3週	お手入れの手順と道具の使用法 デモンストレーション				
第4週	グルーミング実習(2年生との合同実習)				
第5週	グルーミング実習				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
3. 履修上の注意					
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧のみだしなみ等が適切でない場合、出席を認めない。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと。					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護コアテキスト4巻 動物看護実習テキスト 補助プリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

- ・ 出席による評価 20%
- ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 40%
- ・ 課題発表（中間・期末） 40%

6. その他

講師：JKCトリマーおよびJAHAしつけインストラクターとしての実務経験者

JAHA家庭犬しつけインストラクターおよびトリマーとしての経験から、グルーミングの流れと技術について、また行動学に基づいた「犬が受け入れられる扱い方」について指導する。

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院で看護師が診察台の上でも行うような、基本的なケア（爪切り・足裏バリカン・耳掃除・ブラッシング）の指導から、薬浴の効果や方法など現場で行うことに、より近づけた指導をする。